

砂原秀樹+菊地宏明+編集部

【アドバイザー】砂原秀樹
奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDEプロジェクト・ボードメンバー

インターネットの



に答える



このコーナーでは、皆さんから寄せられたインターネットに関する質問や疑問にお答えします。分からないことや疑問はどんなことでもけっこうですので、編集部までお寄せください。メールアドレスは **ip-faq@impress.co.jp** です。なお、質問へのメールでの回答はできませんのでご了承ください。

今月のヘッドライン

1

RFCってなに?

2

数人で1つのアドレスを共用

3

衛星を使ったインターネットの仕組み

Q

メーリングリストに加入して、メールを送ったら、正しく表示されなかった文字があったらしく、「そのことはRFCに載っています、読んでください」と言われてしまいました。この「RFC」とは何のことでしょうか？

(茨城県 水野浩一さん)

A

メーリングリストやニュースグループに所属するとすぐさま問題になるのが、ネチケット(ネットワーク・エチケット)です。

RFC(Request for Comments)とは、インターネットで利用されるプロトコルなどの技術に関し、討議や実験を行うグループ IETF(Internet Engineering Task Force) が取りまとめている文書です。(InterNIC 提供 [URL http://ds.internic.net/ds/rfc-](http://ds.internic.net/ds/rfc-index.html)

index.html) その内容がインターネット標準と一般に認識されています。しかし、実際にはRFCの文書すべてがインターネットに関するものではありません。

ネチケットはRFC1855にまとめられています。通常、メーリングリストに加入したら、まずRFC1855を読んでからメールを流すというのが基本です。RFCの原文は英語ですが、日本語訳をしているホームページもありますので、検索エンジンから探すこともできます。

メーリングリストやニュースグループにメールを流すときの心得として、相手が複数いることを忘れてはいけません。自らメッ

セージを送ることはもとより、返信する際もメーリングリスト参加者全員に送るのか、メールを出した相手に対して送るのかも注意が必要です。

また、頻繁に問題となるのが、機種依存文字を使用した「文字化け」です。電子メールの形式に関してはRFC822に表記され、日本の環境ではISO-2022-JP(JISコード)が標準になっています。これを、別の漢字コードのまま変換しないでメールを送信してしまったり、半角カナ文字を本文やサブジェクトに使用すると文字化けを起こしてしまいます。JIS X 0208で規定されている文字がすべてのコンピュータで読め

RFCってなに?

るのですが、これに属さない機種依存文字がトラブルを起こしています。具体的には や といったものなので、あらかじめ把握してからメールを流しましょう。

(編集部)

Q

やっと私の会社で電子メールが使えるようになりました。けれども、メールアドレスが、1つのセクションで1つしか与えられていません。このため、私宛てに届いたメールも他の人に見られてしまいます。これを解決する良い方法はありませんか？

(東京都 矢野千春さん)

A

1つのメールアドレスを、数人で共有するとはどんなことでしょうか。手紙で考えてみましょう。

アドレスが1つということは、送られてくるすべての手紙には住所と姓しか書かれていないことです。その場合、誰かが手紙を開封して、家族の誰宛てに届いた手紙か判断し、適切な人に渡します。このとき、そのままでは、受取人を確認するために手紙が開封され、内容を確認されてしまいます。

そこで、こんなルールを作れば、内容を知られることはありません。

住所と姓しか書いていない封筒の中に、もう1通封筒を入れておき、そこに名前を書いてもらいます。誰かが、外側の封筒を開封して、受取人を確認しても、中には内容が書かれた便箋を包んだ、名前の書かれた封筒があるので、内容が読まれずとも、受取人を判断できることになります。

これを、電子メールで行ってみましょう。まず、電子メールのサブジェクトあるいは本文に、受取人を記述します。「To:ICHIRO」などと記述してもらえると、電子メールソフトのフィルター機能で各利用者のフォルダーに分類しやすいでしょう。

読まれたくない内容は、暗号化ユーティリティーによって暗号化しておきます。受取人本人でないと復号化できなければ、同じセクションの人に読まれることはありません。

しかし、手紙の差出人にこのような特別な送りかたを守っていただかないとうまくいきません。そして、受取人の書きかたが正しくないと宛先不明になってしまいます。

また、本文を暗号化し忘れると、内容が途中で読まれてしまうかもしれません。で

えている企業ならば、迷惑をかけないようにセクションごとのメールアドレスのほかに、電子メールでのコミュニケーションが必要な各個人にメールアドレスを割り当てていくことでしょう。(荷地安明)

数人で1つのアドレスを共用

すから、このような方法をとるのであれば、差出人へ事前に依頼し、徹底してもらいましょう。そうでなければ、決してお勧めすることではありません。暗号化は興味を持っている人が多くても、なかなか浸透されていけませんので、差出人もそう簡単に暗号メールを送れないでしょう。それを考えると、このやりかたは難しいところがあります。

やはりパーソナルな情報伝達に支障がないように、電子メールのアドレスは個人に割り当ててもらわなければなりません。しかし、会社の電子メールをパーソナルに使うべきではないという人がいますが、果たしてそうでしょうか。

現実を見てください。福利厚生施設の利用請求や人事情報、給与など支払いに関する通知など、パーソナルな情報を会社の業務で扱うことも多いはずですよ。

課という単位でしか割り当てないメールアドレスで取り扱うのは適切とはいえないでしょう。

もしも、個人向けのメールアカウントを会社で用意できないなら、メールのアカウントを作成してくれるプロバイダーを使ってみるのはどうでしょう。インターネットサービスプロバイダーは、インターネット接続のサービスとともにメールアカウントを提供してくれますが、すでにインターネットに接続する手段があるのならメールアカウントだけあればいいはずですよ。現在、年額数千円のコストで、電子メールアカウントの作成を行ってくれるプロバイダーがあり、個人で複数の電子メールアカウントが欲しい人などに人気があります。Yahooなどのディレクトリサービスで電子メールをキーワードに検索すれば、国内にたくさんあるプロバイダーを知ることができるでしょう。

企業によっては、セキュリティポリシーによって、このようなサービスが利用できない場合もあります。事前に電子メールを管理する部署に相談してください。

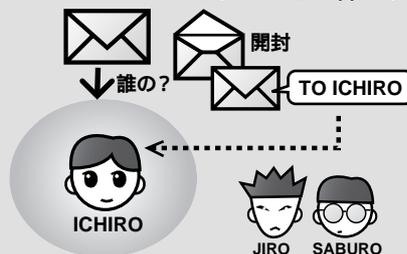
もっとも、顧客や取引先を第一に考

<1つのアドレスを数人で共有>

通常 アドレス:杉並区 1-2-3 鈴木様 (suzuki@xx.yy.zz)



共有例 アドレス:杉並区 1-2-3 鈴木様 (suzuki@xx.yy.zz)



複数アカウントを提供する主なプロバイダー

プロバイダー名	最大追加数	初期費用	メールアカウント追加利用料(月額)	備考
Infoweb(法人)	9	無料	500円	
IIC	4		1000円	
InfoGLOBE(個人)	15	500円 / アカウント	500円	
InfoGLOBE(法人)	15	500円 / アカウント	500円	入会時追加2個まで無料
MAJIC	3	無料	無料	MAJICホームダイヤル
ODNダイヤルアップ	4	150円 / アカウント	250円	
PTOP	10	無料	1000円	入会時追加2個まで無料
Sirius-、2	上限なし	無料	100円	
U-net SURF(個人)	4	500円 / アカウント	無料	
U-net SURF(法人)	14	500円 / アカウント	無料	
Webnik	5	1000円 / アカウント	1000円	

Q

最近、衛星を使ったインターネットサービスについて話題になっていますが、どのようなものなのでしょう。すでにサービスは開始されているのか、その仕組みを教えてください。

(岐阜県 山本和夫さん)

A

通信衛星を利用したインターネットサービスは、さまざまなものがあります。デジタル衛星放送の普及によって、その一部を利用した個人向けのサービスが国内でも始まろうとしています。

米国では、すでにDirecPCというサービスが始まっていますが、国内ではPerfecTVがPerfecPCというサービスの実験を始めたところです。DirecPCもまもなく始まるDirecTVのサービス開始に併せ、国内でのサービスを開始するようです。

さて、デジタル衛星放送の回線を利用したインターネットサービスですが、基本的には2種類の仕組みがあります。1つは、衛星からの回線だけを利用するもの、もう1つは通常のダイヤルアップ接続などを併用するものです。

衛星からの回線だけを利用するタイプのサービスでは、まず通常のテレビ番組と同様に、「何時から何のデータを送ります」という「番組表」をあらかじめ配布しておきます。利用者はそれに従って、希望する情報を選択しておく、時間になると選択した情報が届いているというものです。情報の一部が通信障害などで欠落する場合も

衛星を使ったインターネットの仕組み

ありますので、同じ情報を何度か繰り返し「放送」することで、必要な情報を正しく受信できるようになります。

PerfecPCでは、まずこの形式のサービスを開始するようです。このメリットは、衛星通信回線のバンド幅をフルに利用できることで、2Mbpsとか4Mbpsといった速度の回線に接続されていることと同じになります。多くの人が必要とする情報の配布に適しているという利点がありますが、反面テレビの番組と同様に、自分が必要とする情報が無い場合にはどんなに高速な回線でも役に立たないということになってしまいます。どちらかという、デジタル衛星放送にリンクした情報の配布が主な使いかたとなるでしょう。

もう1つの方法は、すでにDirecPCなどで行われている方法で、一般のダイヤルアップ接続によってアクセス要求を伝え、その結果を衛星回線経由で返すというものです。アクセス要求は、小さな情報ですから回線速度が遅くてもそれほど問題となりません。その結果として返ってくる、HTMLや画像データを衛星回線経由で受け取ることで非常に快適な環境の構築が可能となるのです。ただし、今度は4Mbpsといった回線を複数の利用者で共有することになるので、個人に割り当てられる通信速度は最大でも400

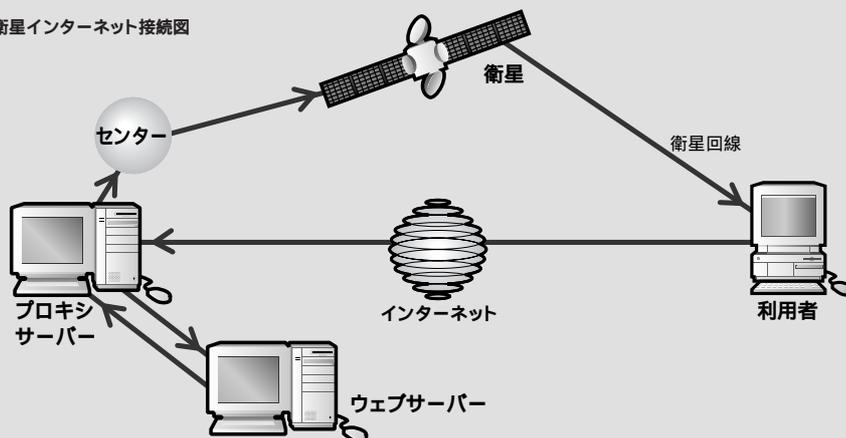
Kbps(DirecPCの場合)となります。また、行きと帰りの経路を変えるために、アクセスはかならずセンターのプロキシサーバー経由となります。したがって、インターネットのどんなサービスでも衛星の回線を利用できるわけではないので、注意が必要です。

電波で送られてくる情報ですから、セキュリティも気になりますが、一応暗号化されて送られるようです。実際のサービスでは、これら両方の方法を組み合わせて利用することになると思います。

さて、気になる料金ですが、今のところ正式な料金はアナウンスされていません。ただ、衛星回線だけを利用する方式では基本的なデジタル衛星放送の受信料のみとなる可能性もあります。また、地上回線も利用するタイプでは、米国のDirecPCでもっとも安いプランが40ドルなので、だいたい同等または1万円程度でしょう。なお、いずれの方式でも専用のインターフェイスが必要で、アンテナを含めて10万円以下というところではないでしょうか(デジタル衛星放送をすでに受信していればアンテナは共用できます)。ともかく、個人でインターネットにアクセスする手段の1つとして、注目される方法だと思います。今後に期待したいところです。

(砂原秀樹)

衛星インターネット接続図



利用者はダイヤルアップ接続などで、インターネットに接続されている。

基本的に、この接続はどんなプロバイダーを利用していても構わない。

したがって、衛星サービスを行うプロバイダーとダイヤルアップ接続の契約をする必要性は無い(衛星回線の契約は必要)。ウェブなどへのアクセス要求は、このダイヤルアップ回線を通じて衛星サービスを行っているプロバイダーのセンターに設置されたプロキシサーバーに送られる。ここで、プロキシサーバーはアクセス要求を目的のウェブサーバーに行い、その返答を得る。得られた返答は、衛星回線を通じて利用者のところに届けられる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp